



左/スキー場のゲレンデ一面がユリで彩られる【富士見高原ゆりの里】。フォトコンテストも開催される

下/【創造の森彫刻公園】では、彫刻一つ一つに説明書きがあり、作者の思いが込められている



自然も自分も 二十年間変わっていません

富士見高原別荘地の正式名称は、「富士見高原保健休養地」。日頃ストレス社会で暮らしている都市生活者が、清涼な高原の空気の中で心身を癒す保養地として、昭和43年、長野県企業局が開発に着手した行政主導の別荘地である。

休養地内には、ゴルフ場やスキー場などのリゾート施設に加え、運動場・体育館など、夏休みの合宿や高地トレーニングに最適な施設も整い、学校のクラブ活動や実業団の強化トレーニングに活用されている。川崎市少年自然の家などの自治体の高原保養所が多い点も特徴だ。

「観光客をたくさん呼ぶためにキャンペンペーンを大々的に行っている民間のリゾート地と比べ、「富士見高原リゾート」はちよつと地味ですが、その分、俗化していませんね。私はここへ来てから二十年経ちますが、変わったのは温泉施設ができたくらいですよ。」

自然環境が変わらないおかげで、初めて富士見高原に来た時に受けた新鮮な感動を二十年間変わらずに持ち続けてこられたと笑うケンさん。

生まれも育ちも京都のケンさんが、初めてこの地を訪れたのは、今から約三十五年前。親戚が購入した別荘に遊びに来て、さらっとした高原の空気、森の美しさに一目惚れ。何度も通って



上/大河ドラマ「利家とまつ」にエキストラとして参加したケンさん(中央)

いるうちに、富士見高原に住みたくなってしまう、二十一年前にペンション「ケンハウス」を開業した。「何しろ京都の夏は暑い。湿度も凄いです。ここはカラッと乾燥していて、日陰に居れば真夏でも汗をかくことなくて稀。シラカバ林、牧草地から眺める雄大な八ヶ岳、蒼く輝く南アルプス、四季折々可憐な花を楽しませてくれる山野草、万華鏡のように色鮮やかな紅葉、幻想的な白い森……。まさに自然そのものがエンターテイナーで、こちらが何もしなくても、感動しっぱなしで居られます。」

ペンションのお客様の中には、二十年前に大学の合宿で訪れ、その後常連となり、結婚し、子供が産まれ、その子も常連になっているというご家族がいたり、引越してきた方がいたり、富士見高原を熱烈に愛してしまっ人が後を絶たない。「ここはTVのロケに使われることがとても多く、滞在していたプロデューサーがそのまま住み着いてしまったケースなど、富士見高原に惚れ込んでしまい、都会へ帰れなくなってしまう人を数えあげたらしきりがないですよ。」

富士見高原の澄み渡る空気を一度体験すれば、その良さが分かると自信満々のケンさん。

誌面ではその素晴らしさのほんの数%しかお届けできませんが、次ページで魅力の断片をちらっとご紹介します。



上/鉢巻道路に立つ富士見高原のモニュメント。ゴルフ場・温泉・運動場など保養地の中心施設を併せ持つ【富士見高原リゾート】の玄関口
左/20年間変わることなくお客様を迎えているペンション「ケンハウス」のアプローチ。サンデッキからは南アルプスが一望できる